

平成29年度

社会福祉法人 天水福祉事業会

ケアビレッジ たがの里
小規模多機能ホーム きらめき
居宅介護支援事業所 わかみや

事業計画書

自 平成29年 4月 1日

至 平成30年 3月31日

社会福祉法人 天水福祉事業会

玉名市天水町小天権現下6638番地

平成29年度高齢者福祉部門事業計画

1. 基本方針

玉名市における人口は年々減少している一方で、老年人口は増加傾向にある。高齢者のいる世帯状況を見ると、ひとり暮らし世帯、次いで高齢者夫婦世帯が増加している。

こうした世帯等にお住いの高齢者の方々を支援するため地域密着型介護老人福祉施設「ケアビレッジたがの里」、小規模多機能型居宅介護事業所「きらめき」を経営しサービスをご利用いただいている。また、8月には、居宅と施設サービス、居宅と居宅サービスとの橋渡しをし総合的にマネジメントする居宅介護支援事業所「わかみや」を開設し支援することとしている。

入居者等への支援を行うにあたり安心して安全な暮らしの継続のため、そして、予防から介護までのサービスを一元的に提供するため、次の目標を掲げ事業を実施することとする。

- i 暮らしの継続
- ii 愛和 いつも楽しく
- iii 信義 規律を守る
- iv 清潔 健康に暮らす

2. ケアビレッジ たがの里・小規模多機能ホーム きらめき

1) 重点目標

- i ユニットケアの推進
- ii 情報の収集・発信
- iii 質の高い職員による処遇、人材育成
- iv 生活リハの充実
- v 健康管理
- vi 職場環境の整備
- vii 経営の安定化
- viii 将来に向けた人材の確保

2) 具体的施策

- i ユニットケアの推進
 - ア ユニットケアについての理解の浸透
 - a ユニット会議、職員会議の活用
 - イ 研修会への参加
 - a ユニットケア施設管理者研修（1名）
 - b ユニットリーダー研修（2名）
 - c ユニットケア研修（数名）
 - ウ ユニットケア先進施設への派遣（1名）
 - a くわのみ荘への派遣研修（1名）
- ii 情報の収集・発信
 - ア 地域戦略の視点を持ちつつホットでタイムリーな情報の収集
 - a 関係機関等へ活動を展開するとともに、HPや新聞等メディアからの情報収集を徹底する。
 - イ 収集したデータ分析、評価
 - ウ 地域包括ケア推進情報の発信（HP、機関誌発行、地域の縁がわ）

- iii 質の高い職員による処遇、人材育成
 - ア 相談・接遇機能の充実
 - a 生活相談員や介護スタッフの資質の向上
 - b 職員会議等の活用、研修会への参加
 - ・組織的対応の推進強化
 - ・マネジメント力のアップ（幹部・中堅幹部）
 - ・グループワークの実践
 - ・HPや新聞等メディアからの情報収集
 - c 「ブスの30ヶ条」の徹底
 - イ ケアプラン内容の充実
 - a ケアマネの資質の向上
 - b 担当者会議の充実
 - ・グループワークの実践
 - ・HPや新聞等メディアからの情報収集
 - c 研修会への参加
 - ウ 介護・看護技術の向上と業務改善
 - a 介護・看護スタッフの資質の向上、業務改善
 - ・職員会議やユニット会議の活用
 - ・24時間シートの活用
 - ・ひもときシートの活用
 - b 研修会への参加
 - c 各種委員会機能の充実
 - d にこにこホット、ヒヤリハット報告の徹底
 - エ 給食の充実
 - a 栄養士の資質の向上
 - ・栄養に関する知識を身に着ける
 - ・調理や食材、栄養、健康、嗜好、食文化など、食にかかわることに関心を持つ
 - ・利用者の方とのコミュニケーションをとる
 - ・利用者のニーズに応えられるようにする
 - b 調理技術の向上
 - ・職員会議やユニット会議の活用
 - ・嗜好調査の徹底
 - ・検食簿の活用
 - ・食材の特徴など知識を身に着ける
 - ・機材の特徴を身に着ける
 - ・料理についての知識を身に着ける
 - ・盛り付けの技術を身に着ける
 - c 研修会への参加
 - ・積極的に研修会に参加し、報告書を作成のうえ調理員全体で情報を共有する
 - d 給食会議の充実
 - ・月1回、給食会議の実施し、給食に関する要望、行事献立の企画などの意見交換を行う
 - ・議事録として記録を残し、次の献立に生かす

- iv 機能訓練の充実
 - ア 機能訓練を取り入れ、ADLを維持・改善
 - イ 24時間シートを活用した個別の生活ケアの実施
 - ウ 介護ロボットの導入検討と実践
 - エ 映画鑑賞、介護体操等の活動を取り入れた心の充実
 - オ ユニット毎に企画した季節を感じ取れるような行事の開催
- v 健康管理
 - ア 健康診断の実施、健康指導
 - イ 看護師による健康管理
 - ウ 産業医の活用
 - エ 嘱託医との連携、各種医療機関との連携・連絡調整
- vi 環境の整備
 - ア ユニットケア推進のためのハード面の整備
 - イ 介護負担軽減用具について検討し導入
 - ウ 風通しの良い職場づくり、人間づくり
 - a 幹部職員によるヒアリング（相談ウイーク）の実施
 - エ 職場内自主点検及び巡視点検票による職場環境の点検整備
 - オ 仕事しやすい被服について検討し導入
 - カ 施設内外の清掃徹底
- vii 経営の安定化
 - ア 常時定員を維持した利用者の確保
 - a 生活相談員による関係機関訪問
 - b HPの活用、機関誌の発行
 - イ 安定的な収入の確保
 - a 関係機関、関係者等への訪問活動の徹底
 - b 職員の意識改革
 - c 戦略会議（職員会議、リーダー会議）の実施
 - d 施設長会議の活用
 - ウ 経費節減
 - a ユニット毎の節減対策計画作成
 - b 消耗品受払簿管理の徹底
 - c 購入先（委託先）や購入方法の見直し
 - d 職員の意識改革
 - e 戦略会議（職員会議、リーダー会議）の実施
 - f 施設長会議の活用
- viii 将来に向けた人材の確保

福祉ニーズが多様化するの中で、如何に人材を確保し育成していくかということが、今後の法人運営の重要なポイントとなってくる。

このため、職員の教育にも力を入れ、より多くの才能が育ち、将来の日本の福祉界を担うような人材の輩出を目標として取り組んでいくこととする。

- ア 研修体系の整備（「取り扱いマニュアル」の整備含む）
 - a 研修の体系化
 - b 研修マニュアルの整備
 - c 人事評価（自己評価）表の導入

イ 資格取得支援

- a 社会福祉主事
- b 介護福祉士
- c ユニットリーダー
- d 介護支援専門員
- e その他

3. 居宅介護支援事業所 わかみや

1) 重点目標

- i 情報の発信・収集
- ii 質の高いケアマネジメントの提供

2) 具体的施策

- i 情報の発信・収集
 - ア 地域、他居宅介護支援事業所、地域包括支援センター及び医療連携室等への情報の発信・収集（HP、機関誌発行、地域の縁がわ）
- ii 質の高いケアマネジメントの提供
 - ア ケアマネの資質の向上
 - イ 研修会への参加

4. 地域貢献

1) 生計困難者対策の実施

社会福祉法人は社会福祉法に基づく公益法人であり、制度に定められた利用者の利益を守る民間社会福祉事業の担い手として、国民の福祉の増進に果たしてきた実績は高く評価されている。

人々の生活が豊かになり、福祉制度の充実、介護保険制度の進展した今日であっても地域には既存の制度では対応できない方等援護を必要とする方が地域に存在している。

このような要援護者に対して、社会福祉法人が地域貢献として相談活動を活発化して、心理的不安の軽減を図ることや利用可能な制度へつなぐことなど、さらに経済的困窮がサービス利用の阻害になっている方に対して、必要に応じて経済的援助を行うことが求められていることから、この事業を実施する。

- ア 相談体制の強化
- イ 相談技術の向上・支援の充実
- ウ 関係機関（玉名市、玉名市地域包括支援センター、熊本県社会福祉法人経営者協議会等）との連携
- エ 地域の縁がわ・ふれあいホーム「ひまわり」の活用

2) ポールウォーキングの実施

ポールウォーキングのノウハウを生かして、地域に住まいの高齢者の健康維持増進に貢献するとともに、ケアビレッジたがの里・小規模多機能ホームきらめき・ニコニコハウス及び居宅介護支援事業所わかみやの周知を図る機会とする。

3) 視察研修や実習生の受け入れ

事業に関する情報及び利用者へのサービス提供に係るノウハウを発信するため、積極的に受け入れることとする。

<受け入れ団体等>

- i 民生委員児童委員協議会
- ii 福祉関係団体
- iii 福祉系高校
- iv 行政
- v その他

4) 「天水つながる夏祭り」の実施

近年、お盆に天水町に帰省してくる家族や若者にとっての楽しみが無くなり、帰省者の減少や町全体の衰退に繋がっている。

このような現状を憂慮し、地域の繋がりを取り戻し、また、活性化を図るひいては地域と施設との交流を図ることを目的として他事業所と連携し実施する。

5) 「お月見の会 in みすみ」の支援

知的障がい者への理解を促すことを目的とするばかりでなく、地域に開かれた事業所作り、地域の文化活動の発表の場、そして、参加者の交流の場となることを目的に実施される「お月見の会 in みすみ」を支援し、情報の発信に繋げる。

6) 若宮天子宫大祭の支援

若宮天子宫大祭は、明日の日本を背負う園児たちに日本の心を伝承すべく開催されるものであるが、本法人の利用者にとっても、祖先を敬い幼少時代に思いを馳せることに繋がり、そのことが生き甲斐等生活の糧にも繋がるものと思われることから大祭を支援し地域貢献に繋げる。

※若宮天子宫大祭諸式解説より

昭和20年8月15日天東亜戦争敗戦と共に日本国民は総て虚脱状態となり、日本建国以来培われた日本の心が一朝にして悉く失われ、唯物万能の思想が蔓延し、只、自由、平等、人権のみ叫ばれる社会情勢となり誠に憂慮すべき世相となった。日本国民の生命と幸せを守り、また、日本国土を護持せんがため、勇躍大戦に参加し明日の日本の繁栄を信じて犠牲となった250万余りの戦友は、靖国神社での再会を信じて勇んで尊い命を捧げて行った。この愛国の崇高な英霊に、生き残りの吾々日本国民は、日本の復興と再建に邁進し、神国日本の心を取り戻し、吾々の祖先が残した遺訓と遺業に於て行くことを寸時も忘れてはならないのである。

このような使命感に燃え明日の日本を背負う園児たちに日本の心を伝承すべく、時の保護者会長・宮田俊明氏他、当時の役職員の総意により保育園の守護神として本宮より少彦名命、大国主命、御年神の御神霊の遷宮を戴き若宮天子宫を建立し、昭和41年第1回の若宮大祭が地域社会の拍手と賛同の中、古式による前夜祭からはじまり15日の本大祭が挙行され、地域住民と共に一大行事となった。そして、伝統の本宮の火の神祭が夜の青年節頭屋のお祭りとして、若宮天子宫の祭りが昼の子どもと女の祭りとなり、理解され恒例となり厳粛に意義ある行事として毎年益々盛大に伝承され今日を迎えているのである。

7) 地域との交流活性化

かつて「縁がわ」は、隣近所の人たちがおしゃべりをしたり、子どもたちの遊ぶ様子を見守ったり、お年寄りから若い母親に子育ての知恵を伝えたり、時には収穫した野菜を選別したりといろいろな人の交流の場であったが、今日、熊本でも昔ながらの「縁がわ」はあまりみられなくなった。

一方で、商店街の空き店舗や空き校舎を活用した「住民交流サロン」や「地域のふれあい交流拠点」など、新たな居場所が形成されつつある。当法人では、経営する小規模多機能ホームきらめきに、地域の縁がわ及び寝泊まりできるふれあいホームを併設し交流の拠点としているが、利用が低迷している。

これらの施設について情報発信するとともに、地域との交流について企画・運営（介護教室、敬老会、食事会等）し、交流の活性化を図る。

5. 行事等実施計画

1) 定 例

- 若宮天子宮参拝
- 施設長会議（毎月第1金曜日）
- 職員会議（月末火曜日・水曜日）
- 拡大リーダー会議（月末火曜日職員会議後）
- 映画鑑賞（第3木曜日）
- 通信発行（月末）
- 幹部会議（毎週金曜日）
- 運営推進会議（概ね2か月に1回）
- ユニット会議（月1回）
- 給食会議（拡大リーダー会議内）
- 理髪サービス（月末）

2) 随 時

○各種委員会

- ・ユニットケア推進委員会
- ・QOL向上委員会
- ・感染・食中毒対策委員会
- ・リスクマネジメント委員会
- ・防災委員会
- ・介護技術向上部会
- ・接遇向上部会
- ・機能訓練推進部会
- ・栄養マネジメント部会
- ・認知症ケア対策部会

○入所判定委員会

○退院受入判定会議

○ケース担当者会議

○保育園児ふれあい訪問

○視察研修・実習生等受入

○他施設イベント見学、参加

3) 月 別

区 分	内 容	
	ユニット	厨 房
4月	ショッピングドライブ	花見献立（行事食）
	花見	
	慰霊祭	
5月	ショッピング	子どもの日献立（行事食）
	花菖蒲祭り見学	
6月	紫陽花見学	喫茶タイム
	喫茶タイム	
	ソーメン流し	
7月	ショッピングドライブ	七夕献立（行事食）
	ミニ夏祭り	土用の丑の日ウナギ献立（行事食）
8月	天水つながる夏祭り	夏祭り（屋台）
	かき氷・スイカ割大会	
	外食	
9月	お月見の会 in みすみ	お月見献立（行事食）
	敬老会	敬老会（特別食）
	避難訓練	
	ショッピングドライブ	
10月	若宮天子宫大祭	ハロウィン（おやつ）
	コスモス見学	
11月	ドライブ	喫茶タイム
	焼芋の会	
	喫茶タイム	
12月	クリスマス交流会	クリスマス献立（行事食）
	忘年会	忘年会（特別食）
	餅つき大会	冬至食献立（行事食）
		大晦日献立年越しそば（行事食）
1月	新年宴会	おせち献立（行事食）
	ショッピングドライブ	七草粥（行事食）
	どんどや	
2月	節分	節分献立（行事食）
	ショッピング	バレンタインデー（おやつ）
3月	ショッピング	ひなまつり献立（行事食）
	ひな祭り	